

編集後記

14巻もついに12号を迎えることになった。これで「総合リハビリテーション」も次号から15歳になる。

さて12月号の特集テーマは「自然環境とリハビリテーション」で、その実態を知る上で役立つことを期待した。10年以上前になるが、片麻痺後遺症の患者さんには、冬の雨の降る日は百貨店へ行って店内の散策をすることを勧めていると言ったところ、東京の方と東北の方から手厳しい御言葉を賜ったことがある。つまり東京では、次々と拡張をした百貨店が多いので、大変バリエーションが多い建物であること。また東北では、冬には雪が降るので百貨店へたどり着くのが大変であることを知らされ、日本は広い国であることを改めて認識するはめとなった。この特集のテーマの発想もそこいらに源を発しているのかも知れない。

豪雪地帯のリハビリテーションについては新潟県六日町病院の折居氏・他によるくわしい紹介である。越冬入院という言葉も耳新しいが、入院期間を見ると短期間の患者も多く、氏の活動振りがよく解り拍手を送りたい。氏は、問題点を三つ示した。つまり雪と寒さによるもの、消雪設備や住宅構造、民宿繁栄による障害者へのしわよせがそれで、いずれも教えられる点である。

山村地域のリハビリテーションについては信州大学の西村氏の南佐久郡についての報告

がやはり興味深い。農繁期の過酷な労働、医療上での過疎、それから引き起こされる潜在疾病と手遅れ、さらに農民の健康犠牲なども大変教えられるところが大きい。

過疎地域のリハビリテーションについては島根県立中央病院の木佐氏にお願いした。これも大変興味ぶかい。まず、日常「過疎」と言っているがこれにもはっきりとした定義があることで、以前に「寝たきり」の定義を見たときの感じを思いだした。氏は老人保健法にもとづく機能訓練の実態、乳児発育障害のリハビリテーションのシステムについて述べて過疎地域イコール老人という観念連想を打ち破るものである。

離島のリハビリテーションは、国立療養所長崎病院の浜村氏にお願いした。この問題については、長崎県を除外しては語れない。長崎には約600の離島があり、その人口は長崎県の約18%を占めるという。氏の基本的姿勢として、それらの地域医療の経過を知り、各地域の実状を知り、地元の主体性を十二分に尊重し、地元と共同して計画実践することを挙げているが、経験からにじみでた誰もが念頭におかなければならない言葉であろう。

本号はさらに研究と報告1編、症例報告2編、講座2編と盛りだくさんで読者も満足してくださることであろう。

(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏 甫
緒 方 淑 雄
大 井 嗣 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第14巻 第12号)

1986年12月10日発行 (毎月1回10日発行)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 椿 孝 雄

1 部 定 価 1,650円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 18,480円)
(送料弊社負担)

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷㈱: 電話 (03) 685-3131

広告申込所 ㈱東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1986, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複製・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。